

第40回 日前宮

薪能

日時：平成27年7月26日(日)
午後6:30~8:30(雨天決行)
場所：日前宮(和歌山市秋月365)
電話 073-471-3730

■7月1日(水)午前9時より入場券(無料、お一人様一枚・先着600名)を発行します。
ご希望の方は社務所まで取りに来るか、封書(82円切手貼付の返信封筒を同封)にて
お申し込みください。

舞囃子 「吉野天人」
宮楠昂之
狂言 「鬼瓦」
茂山七五三
仕舞 「羽衣」
小林慶三
能楽 「高砂」
分林道治

夏祭

茅の輪くぐり神事

夏祭：7月26日(日)午前9時~
茅の輪くぐり神事：同日午前9時30分~

水無月の
夏越の祓いする人は
千歳の命
延ぶと言ふなり



舞囃子「吉野天人」 宮楠昂之

石井保彦 前川光長
林 吉兵衛 左鴻泰弘

地謡 浦部幸裕
小林慶三
牧野和夫

狂言「鬼瓦」 大名 茂山七五三

太郎冠者 茂山宗彦

後見 島田洋海

仕舞「羽衣」 小林慶三

地謡

武田大志
古橋正邦
深野貴彦

能楽「高砂」 住吉明神 分林道治

阿蘇宮神主 原 大

太鼓 石井保彦
小鼓 林 吉兵衛

太鼓 前川光長
笛 左鴻泰弘

「吉野天人」

舞囃子は能の演目のクライマックス部分のみを演じるダイジェスト版とも呼べる演能形式で、囃子方の演奏が入ります。能面も装束も着けず、シテは紋付袴で登場します。舞囃子「吉野天人」は桜を見ようと吉野山に来た男の前に現れた天人が、世にも美しい舞を舞う場面です。

遠国の大名は、太郎冠者を伴い、因幡堂の薬師如来に参詣する。大名が薬師如来を国元にも祭りたいと思ひ、堂内を見ていると、鬼瓦に目が留まる。鬼瓦が国元の妻に似ていると泣きたす大名を太郎冠者は慰め、二人は大笑いするのであった。

「羽衣」

仕舞は能の略式演奏の「形式」であり、能の中で独立しうる一部分を抜粋したもので、能面も装束も着けず、紋服袴、あるいは袴姿で囃子も用いず地謡のみで舞います。仕舞「羽衣」は昔話でもおなじみの羽衣伝説をもとにした能です。天女が舞いながら天空へと上がる場面です。

「高砂」

九州阿蘇宮の神主、友成は上京の途中、播州高砂の浦で老夫婦から、高砂の松と住吉の松を合わせて「相生の松」という謂れを聞く。老夫婦は自分たちが松の精、神の化身であると告げると、住吉に友成を誘い、姿を消す。友成が住吉に着くと住吉明神が現れ、神々しく颯爽と舞い、泰平の御代を言祝ぎ、平安の世を祝福する。